



給食

さくら・ぼら

食欲の秋！ということで、これからの季節、旬で美味しい食べ物が沢山ありますね。秋の味覚を楽しむと共に、子どもたちの体を作っていくバランスの良い給食は、子どもたちが楽しみにしている毎日のひとつです。

保育園では、自分の給食は自分でつげるようバイキング形式にしています。注ぎ方の練習だけではなく、食べる量を自分で決めることが出来るからです。さくら・ぼらになると自分が食べられる量を把握でき、苦手なものもわかってきます。苦手なものは無理に食べるのではなく、少し減らすなど自分が食べられる量にしています。そして「自分でついだものは、残さず食べることを」決めていきます。だからといって、好きなものは多めにつぐのではなく、後の人の分も考えてつぐこと。給食が余ったら、全部食べた後におかわりしています。また、ご飯の量ですが、ご家庭での子どもの様子を見ながら、量の加減をお願いします。



配膳

配膳は、食事のマナーの1つです。配膳の置き方は分かってはいるものの、左右反対になっているお友達があります。自分で意識して並べることが大切ですが、保育園だけではなく、ご家庭でも行ってほしいと思います。

食事中は…

食事中は背筋を伸ばした姿勢で食べるように心掛けていますが、つついテーブルに肘をついてしまったり、お皿を持たずに置いたまま食べたり…という姿が見られます。また、お友達と会話をしながら楽しく給食を食べることはいいのですが、口の中に入っている状態で話す、口を開けたまま噛むことも。楽しく食事をするためには、食事のマナーを身につけることが大切です。お皿を持って食べることや、口の中に入っているときは、お喋りしないことなど。食事の仕方は毎日の繰り返しが習慣となっていくので、子どもの様子を見ながら、自分で意識して心掛ける声掛けをしていきたいですね。



完食後、席を立つ時は椅子の下や、自分が食べた周りに食べこぼしがないか一度確認を。次のお友達が気持ちよく食べることが出来るよう、最後は台ふきで拭いてから、交代するよう心掛けています。

午睡のご用意 ぼら



給食が終わったら、子どもたちは午睡をします。パジャマの着替えがスムーズに行えるぼら組さんですが、脱いだ洋服は畳んでロッカーに置くことを心掛けています。パジャマだけではありませんが、脱いだものは畳んで置くこと、全てのことに習慣づけておきたいと思っています。

パジャマに着替えた後は、率先してお布団敷きをしてくれます。お布団を敷く時は、ただ敷くのではなく、横や縦を見て綺麗に並べて敷いてくれるお友達や、シーツの端を綺麗に合わせて敷いてくれるお友達の姿が見られます。みんなで協力し合ってお布団を敷くことは、子どもたちにとって楽しいお仕事のようにです。また、自分のお布団から敷くのではなく、小さいお友達のお布団から敷いてくれます。そんな、ぼら組さんたちに優しさを感じています。



帰りのご用意 さくら



午睡後、起きてからの行動が早いさくら組さん。自分たちのご用意をさっと終わらせた後は、いろんなことを手伝い、さくら組さんの活躍タイムとなっています。みんなのお布団を運んでくれたり、ノートを探している子に名前を見てあげたり。それだけではなく、小さい子のお世話を毎日進んでしてくれるお友達がいます。自分で周りを見ながら進んでくれるので、気持ちが良いですね。その様子を見てみると…全部してあげるのではなく、「〇〇ちゃん、ズボン履くよ」「トイレ行こうか」と小さい子に優しく言葉掛けをしながら、見守る姿が見られます。時には言うことを聞いてくれず、どう接していいか悩む姿も見られますが、悩みながらも自分で考え、関わっていく中で接し方を少しずつ学んでいます。今では自分のご用意が終わると、嬉しそうに小さい子の元に向かうさくら組さんですが、小さい子と関われる嬉しさだけではなく、自分たちがお兄ちゃん・お姉ちゃんとしての自覚を持つことが出来て自信にも繋がっているようです。

